



エントリー事前説明会

企業におけるOSS推進のための OSPOLレベル1構築ワークショップ

2025年10月2日(木曜日) @IPA



本日の司会進行

IPA デジタル基盤センター
オープンソース推進担当

今村 かずき



UDトーク[®] (自動翻訳字幕)

UDトークで日本語／多言語のリアルタイム字幕を提供しています。

(リマインドメールにて案内をしています)

Slido（ライブQ&Aツール）

入口で配布の用紙にも同様の案内を記載しています。

1. Webブラウザで **slido.com** にアクセス
2. 「Enter code here」に「**ipaospo**」を入力

質問や感想、コメントなどお寄せください！

15:50頃の質疑応答タイムで取り上げます。

機密情報・個人情報の書き込みにはくれぐれもご注意ください。

またはこちらのQRコードから



チェックイン（Slidoの書き込み練習を兼ねて）

みなさんの“ワクワク”や“不安”を 教えてください！

Slidoの「投票（Polls）」から投稿してください。後ほどフォローアップします。

「投票（Polls）」の
タブをアクティブに
する

20251002OSPOレベ...

Q&A 投票

[チェックイン]みなさんの“ワクワク”や“不安”を教えてください！ 0

回答を入力...

送信

入力して「送信」
ボタンを押す

OSPO[オスポ]とは

OSPOとは**Open Source Program Office**の頭文字をとった略語です。

企業や組織において、OSSを効果的かつ安全に活用し、管理し、貢献するための専門部署やチームのことです。

OSPOは単なる管理部門ではなく、OSSを通じて社内外とつながり、共創や技術革新を推進する「**橋渡し役**」としての役割も担っています。

本日の要点

- OSPOLレベル1構築ワークショップへのエントリーは**2週間後の10/16（木）に受付を開始**します。
- 本日はワークショップの概要を説明します。後日、貴社に持ち帰っていただいて、社内でワークショップへのエントリーをご検討ください。
- 本日の事前説明会に不参加でもエントリーいただけます。
- ワークショップで使用する「**OSPOスターターキット**」と「**ワークブック**」は2026年3月にIPA公式Webサイトから公開予定です。

本日のタイムスケジュール

15:00～	オープニング	
15:10～	第1部	「OSPOレベル1構築ワークショップ」の概要説明とエントリー方法のご案内
15:30～		トークセッション ゲスト：Ana Jiménez Santamaría(The Linux Foundation)
15:50～		質疑応答
16:00～	休憩（10分間）	※オンラインは第1部で終了となります。 （ここまでの録画を後日IPA公式YouTubeチャンネルで限定公開する予定）
16:10～	第2部	ワークショップの模擬体験
		相談会（任意）
17:00	閉場	

時間は目安です。進行の状況により前後することがあります。

記録のために撮影が入ります

会場にいるみなさんの顔や姿が映り込む場合がありますことをご了承ください。

もし映り込み不可の場合は、その旨を運営スタッフまでお伝えください。

または本イベントの問い合わせ先メールアドレスまでご連絡ください。

本日の前半1時間程度（オンライン配信部分）はアーカイブ録画を後日IPA公式YouTubeチャンネルで限定公開する予定です。

機密情報・個人情報の映り込みやSlidoへの書き込みにはくれぐれもご注意ください。

行動規範

IPA主催オープンソース推進イベントでは、以下の行動規範を適用しています。

当該イベントに参加することにより、以下に記載されている行動規範を遵守することに同意するものとします。

- IPA主催オープンソース推進イベントにおける**グランドルール**
- IPA主催オープンソース推進イベントにおける**アンチハラスメントポリシー**

グランドルール 1/2

お互いをリスペクトしよう

どんな意見やバックグラウンドも大切に。相手の立場や考えを尊重し、違いも面白がってみましょう。

積極的に耳を傾け、心を開いて話そう

他の人の話を注意深く聞き、自分の感じたこと、考えたことを率直に話してみましょう。一方的にならず、対話を楽しみましょう。

「どうすればもっと良くなる？」の視点を持とう

課題や難しいテーマでも、誰かを責めるのではなく、「私たちに何ができるか」「どうすれば改善するか」という前向きな視点で話し合しましょう。

グラントルール 2/2

安心して話せる場を大切に

イベント内の対話で知った個人的な情報や、場を離れて共有すべきでない内容は、大切に扱しましょう。みんなが安心して発言できる雰囲気作りを心がけましょう。

イベントの時間を有効に使おう

タイムキーパーや進行役の案内に協力して、限られた時間をみんなで有効に使いましょう。

議論の原則：チャタムハウスルール

議論の内容、そこで得られたアイデアや意見、情報は自由に引用し、共有できます。

しかし、その発言を行った人物が誰であるか、あるいは参加者個人の身元や所属を外部に明かすことは固く禁じられています。

アンチハラスメントポリシー

ハラスメント行為はいかなる場合でも容認しません。

- 人種、性別、性的指向、障がい、外見、身体の高さ、国籍、宗教などに関する差別的な言動
- わいせつな、あるいは性的な内容を含む言動
- 他の参加者に対するつきまとい、嫌がらせ、または脅迫
- イベントの運営を妨害する行為
- 上記の行為を無視、奨励、または擁護すること

会場内での言動だけではなく、イベントに関連したコミュニケーションや、SNS・ブログ等での情報発信も本ポリシーの適用範囲とします。

対象者はイベントに関わる全員（参加者、登壇者、運営スタッフ、イベント協力者など）とします。

チェックイン フォローアップ





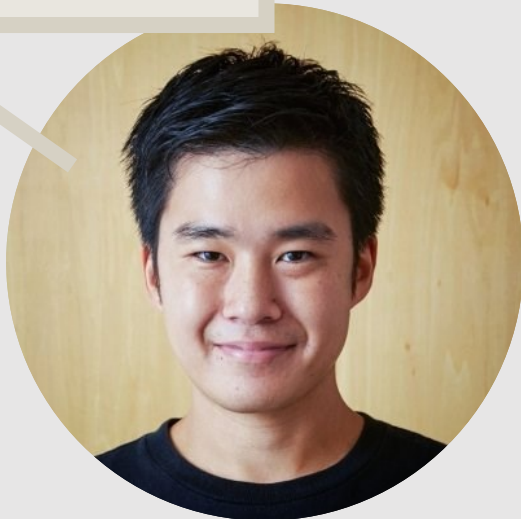
第1部



IPAオープンソース推進チームの紹介

IPA専門委員
服部 佑樹

GitHub Japan Customer Success /
Sr. Architect, The InnerSource
Commons Foundation President



IPA専門委員
渡邊 歩

株式会社日立ソリューションズ シニア
OSSスペシャリスト・日立OSPOメンバー
／The Linux Foundation Japanエバン
ジェリスト

IPA専門委員
ガオリユウ
Dialogue Design



「OSP0レベル1構築ワークショップ」とは

本ワークショップは、企業がオープンソースソフトウェア（OSS）を「**安心して使う**」ための社内体制、すなわち「**OSP0レベル 1 の状態**」を整えることを目指します。

単に答えを教えるのではなく、**参加者自身が考え、自社に最適な OSS 活用推進の考え方を習得し、具体的なドキュメント作成に繋げる実践的なプログラム**です。

「レベル1」とは

企業としてOSSがビジネス戦略及びテクノロジー戦略の重要な部分であることを認識し、OSP0を組織する段階に到達することを意味します。

それはすなわち、“**はじめての一步**”

参加のメリット・効果

- ・ **自社におけるOSS推進の明文化と体制整備**：業務でのOSS活用・管理に関する社内方針・ガイドラインの基盤整備に直結
- ・ **行動計画の具体化**：実践的な行動計画を策定し、部内で展開可能
- ・ **他社の事例・ノウハウの取得**：同様の課題を持つ企業とのディスカッションにより、自社にとって実行可能な戦略を抽出

2026年3月、ワークショップで使用了た「OSPOスターターキット」と「ワークブック」を公開予定

OSPOスターターキット

OSPO を始めるためのスターターキットを提供

- スターターキットは Web ページ、PDF など多様なフォーマットで提供予定
- オープンソースで進化するドキュメント
- ベースドキュメントをもとに個社ごとにカスタマイズ可能。

キットをうまく使い、アドホックの対応をプログラム化しましょう。



OSPOスターターキット活用の流れ

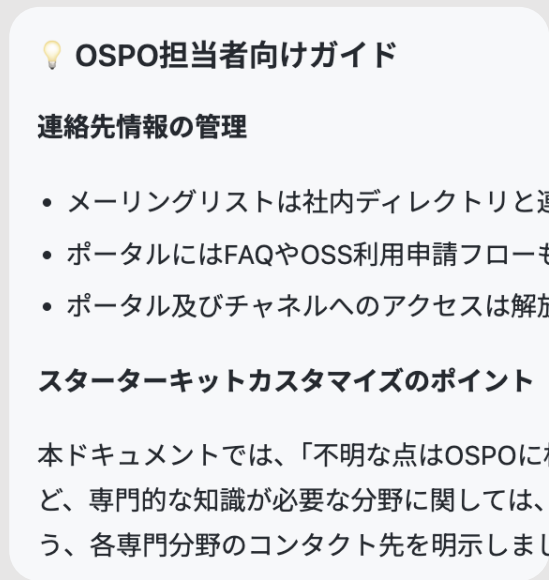
理解



精査する



カスタマイズ



組織に適用/運用



繰り返す

ワークブック

OSPOレベル1構築ワークショップ用ワークブック

このワークブックはIPA主催のワークショップ「OSPOレベル1構築ワークショップ」のワークで利用するワークブックです。

OSPOスターターキットのワークということで、現時点で「分からない」「知らない」という答えもOKです。むしろ分からないところを知ること、社内でどんな人に協力してもらおうと良いのか、進むために準備していくと良いのかが見えてきます。このワークを通して、OSSに向き合うことへの感覚と気持ちを一緒に作っていただければ幸いです。

(ワークブックより抜粋)

ワークブック

ワーク構成

第一段階: 「種」を見つけるワーク



OSS活用に対する漠然としたアイデアやキーワードを深く考えすぎず、直感的に答える段階。潜在的なニーズや課題の種を見つけるワークで、現在位置を認識します。

「分からない」もOK!

第二段階: 「言葉」にするワーク



第一段階で洗い出したキーワードを使い、より具体的で論理的な文章にまとめます。この段階では、OSS活用を自社のビジネスや文化と結びつけて考えます。

言語化のグループワーク

第三段階: 会社に戻って実践



ワークショップの第一段階で得たキーワードとアイデアと第二段階で作成した文章を基に、実際のOSPOスターキットをカスタマイズしてドキュメント化する作業です。

次のワークの日までのめ切駆動

ワークブック

第1章：カスタマイズポイントを自社の特性より検討する

第一段階：OSS活用の「種」をみつける

このワークでは、OSS活用について深く考えず、頭に浮かんだキーワードやイメージを自由に書き出します。知らないことや分からないこと、考えたことがないことは「分からない」など率直に書き出しましょう。1つの付箋に1キーワード、1文章で書きましょう。

1.1. あなたの会社はどんな会社ですか？

1.1.1. どんな製品やサービスを売っていますか？ ※複数ある場合は製品ごとに1-5を書く

1.1.2. 誰がお客さんですか？

1.1.3. 会社の自慢できることは何ですか？

1.1.4. 会社が求める価値はどんなことですか？

1.1.5. どんな人が関わっていますか？

1.2. ソフトウェア開発は、会社でどんな役割を果たしていますか？

※考える時に使える観点例

- ・ソフトウェアは、売っている製品の一部分ですか？
- ・ソフトウェアは、社内の仕事で使われていますか？
- ・ソフトウェアは、お客さん向けのサービスですか？

1.3. 今、仕事で使っているツールを教えてください。

※書き方例：ソフトウェア、ツール名（例：Linux、GitHub、VS Code） + なぜそれを使っているか

1.4. OSSを使うことで、どんな「困った」ことや「もっとこうなったらいいな」ことがありますか？

- （例）ライセンスのルールが難しくわからない。
- （例）OSSのセキュリティが心配。
- （例）もっと最新の技術を使いたい。
- （例）そもそもOSSが何かが捉えきれていない。

第二段階：OSS活用を自社の言葉で語る

このワークでは、第一段階で出てきたキーワードをもとに、OSS活用を自社の文脈で文章にします。第一段階で知らなかったり、分からなかった時は、第二段階の文章を考えるのに社内の誰かに相談すると良さそうかを書き出しましょう。社内で思いつかない場合、どんなことを調べると良さそうかを書き出しましょう。何から始めると良さそうかを書き出しましょう。

2.1. 会社がOSSに期待していることは何ですか？

※考える時に使える観点例

- ・会社が大切にしている価値観（例：効率、品質、成長など）と、OSSをどうつながると思いますか？
- ・OSSを使うことで、どんな「コスト」を減らしたり、「新しいこと」を始めると良さそうでしょうか？

2.2. あなたの会社にとって、OSS活用はどんな重要性を持つと考えられますか？またはどんな風にOSSを使うと良さそうですか？

※例

ハードウェアの会社（製造業など）：ソフトウェアのコストダウン、開発のスピードUP
ソフトウェアの会社（サービス業など）：OSSをサービスの一部に利用、エンジニアスキルUP
（例以外を考えるのに第一段階のキーワードを眺めて考えてみましょう）

2.3. OSS活用を進める上で、特に力を入れたいことは何ですか？

※考える時に使える観点例

- ・「人」に関することですか？（例：エンジニアの採用、教育）
- ・「ルール」に関することですか？（例：ライセンス管理、セキュリティ対策）
- ・「お金」に関することですか？（例：コスト削減）

2.4. ワークで考えた情報を社内の誰に、どんな目的で使ってもらおうと良さそうですか？

※考える時に使える観点例

- ・開発者や管理者に、OSSの良さを伝えるためですか？
- ・経営層に、OSS活用の重要性をわかってもらうためですか？
- ・社内みんな、OSSのルールを決めるためですか？

（ワークブックより抜粋）

ワークブック

第1章：カスタマイズポイントを自社の特性より検討する

第一段階：OSS活用の「種」を見つける

このワークでは、OSS活用について深く考えず、頭に浮かんだキーワードやイメージを自由に書き出します。知らないことや分からないこと、考えたことがないことは「分からない」など率直に書き出しましょう。1つの付箋に1キーワード、1文章で書きましょう。

1.1. あなたの会社はどんな会社ですか？

1.1.1 どんな製品やサービスを売っていますか？ ※複数ある場合は製品ごとに1.-5を書く

1.1.2. 誰がお客さんですか？

1.1.3. 会社の自慢できる場所は何ですか？

1.1.4. 会社が求める価値はどんなことですか？

1.1.5. どんな人が関わっていますか？

(ワークブックより抜粋)

ワークブック

1.2. ソフトウェア開発は、会社でどんな役割を果たしていますか？

※考える時に使える観点例

- ・ソフトウェアは、売っている製品の一部ですか？
- ・ソフトウェアは、社内の仕事で使われていますか？
- ・ソフトウェアは、お客さん向けのサービスですか？

1.3. 今、仕事で使っているツールを教えてください。

※書き方例：ソフトウェア、ツール名（例：Linux、GitHub、VS Code） + なぜそれを使っているか

1.4. OSSを使うことでどんな「困った」ことや「もっとこうなったらいいな」がありますか？

- （例）ライセンスのルールが難しくてわからない。
- （例）OSSのセキュリティが心配。
- （例）もっと最新の技術を使いたい。
- （例）そもそもOSSが何かが捉えきれていない。

（ワークブックより抜粋）

ワークブック

第二段階：OSS活用を自社の言葉で語る

このワークでは、第一段階で出てきたキーワードをもとに、OSS活用を自社の文脈で文章にします。第一段階で知らなかったり、分からなかった時は、第二段階の文章を考えるのに社内の誰に相談すると良さそうかを書き出しましょう。社内で思いつかない場合、どんなことを調べると良さそうかを書き出しましょう。何から始めると良さそうかを書き出しましょう。

2.1. 会社がOSSに期待していることは何ですか？

※考える時に使える観点例

- ・会社が大切にしている価値観（例：効率、品質、成長など）と、OSSをどうつながると思いますか？
- ・OSSを使うことで、どんな「コスト」を減らしたり、「新しいこと」を始めると良さそうでしょうか？

(ワークブックより抜粋)

ワークブック

2.2. あなたの会社にとって、OSS活用はどんな重要性を持つと考えられますか？またはどんな風にOSSを使うと良さそうですか？

※例

ハードウェアの会社（製造業など）：ソフトウェアのコストダウン、開発のスピードUP

ソフトウェアの会社（サービス業など）：OSSをサービスの一部に利用、エンジニアスキルUP

（例以外を考えるのに第一段階のキーワードを眺めて考えてみましょう）

（ワークブックより抜粋）

こんな方におすすめします

- OSSの社内活用や管理に初めて取り組む方、またはこれから体制を整備したいと考えている方
- OSSの利活用を推進したいが、何から手をつければ良いか分からない担当者やリーダー層
- OSPOの概念や、社内におけるその役割について、基礎から実践的に学びたい方
- OSSに関する専門知識は現在不十分でも、自社のOSS推進に意欲的に貢献したいと考えている方
- 他社の事例や考え方を参考にしながら、自社独自の推進計画を具体的に描きたい方

スケジュール

第1回：2025年11月6日（木）

第2回：2025年12月2日（火）

第3回：2026年1月22日（木）

会場：IPA・文京グリーンコートセンターオフィス13階

（会場は変更が生じる可能性があります）

- 各回とも時間は15:00～17:00。
- 終了後（17:00～17:30）に任意の相談会を開催予定です。
- 2026年3月にワークでの成果や気づきを発表・共有する場を設けます（日時と会場は後日調整）。

エントリー方法

2025年10月16日（木） 15:00 エントリー受付開始

※万が一、開始時刻が遅れる場合はイベントページとご登録メールアドレス宛にご案内します。

定員：会場参加のみ・先着順10社程度（1社あたり4名までのチームで参加）

- ・ **組織単位での募集**となります。グループ会社内の横断チームでもOK！
- ・ 会場のキャパシティを鑑み、最終的な参加組織数は前後する予定です。
- ・ ワークショップ**全3回すべての参加が条件**となります。

参加費：無料（会場までの交通費はご負担ください）

エントリー時に必要な項目

- 代表者情報 ※運営事務局からの連絡用
 - 御社名・組織名
 - 代表者氏名・メールアドレス・部署名・職種（選択式）・役職（選択式）
- 組織情報
 - 業種（選択式）
 - 従業員数（選択式）
- チームメンバー情報 ※代表者を除く
 - 氏名・部署名・職種（選択式）・役職（選択式）

↑メンバー全員分をご記入ください

トークセッション



Ana Jiménez Santamaría

Senior Project Manager
at the Linux Foundation



質疑応答

会場またはSlidoからピックアップします。



申込み時にいただいていたご質問

- OSSの選定のポイント、バージョンアップのポイントは？
- OSS採用時、社内にどのレベルの開発者が必要？
- OSPO立ち上げは国際標準（ISO/IEC 5230）準拠につながる？（標準とOSPOとの関係性があれば）

休憩（10分間）

オンライン配信はここで終了となります。

みなさまのエントリーをお待ちしています！



第2部